

平成29年 5月26日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長兼CEO 此下 竜矢
(コード2388 東証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 開示担当 小竹 康博
(TEL 03-6225-2207)

GL 第1四半期業績における大きな成果を発表

当社の重要な子会社でありますSET(タイ証券取引所)上場のDigital Finance会社Group Lease PCL(以下GL)は、SETに第1四半期決算(財務諸表)を開示し、その内容につきましてプレスリリースを公表いたしましたので、日本語にてご紹介いたします。

(以下、GL社公表のプレスリリースの翻訳)

2017年5月15日

タイ証券取引所(SET)上場企業でDigital Finance事業で急速な拡大を続ける Group Lease Public Company Limited (GL)は第1四半期業績を発表いたしました。タイを始めグループが事業展開しているほとんどの地域における業績好調を背景に、純利益は前年同期比47.35%増の327.36百万タイバーツと目覚ましい結果となりました。

この第1四半期純利益は、昨年度第4四半期の純利益324.4百万タイバーツを上回り、結果、10四半期連続での最高益更新の達成となりました。

また、GLは、2017年5月15日付SETへの公式な報告において、シンガポールの完全子会社であるGL Holdings (GLH)が2017年5月9日開催の同社取締役会において、2017年5月17日までに株主であるGLに対して9.99百万米ドル(約346百万タイバーツ)の配当を支払う決議したことを明らかにいたしました。この配当は、GLの現第2四半期の業績に大きな好影響を与えることとなります。

GL執行役会会長である此下竜矢氏は、「第1四半期は、高い潜在成長市場であるインドネシアとミャンマーでの事業の急発進に掛かる大きな費用が発生いたしました。その費用がなければ、第1四半期の業績は更に向上しておりました。しかし、その新市場、新商品への初期投資があったにも関わらず、我々は最高益更新を果たすことができました。」と述べました。

また此下氏は、「今回の第1四半期財務諸表は、監査法人であるErnst & Youngにより“公正”であるとの報告を受けたことに大きな意味があります。」と述べました。以前からGL経営陣は、シンガポールとキプロスの主要債務者グループへの貸付に対する引当とスリランカのコロombo証券取引所上場ファイナンス企業Commercial Credit & Finance (CCF)への投資に対する減損の不必要性を主張しておりました。

GL株主の間では、GLのCCF株式29.99%取得に対して、コロンボ証券取引所におけるCCF株価が下落したことを受けて、減損を行う必要性が懸案されておりました。しかし、此下氏は、「CCFは高収益企業であり、GLはこの投資を長期的投資として捉えているためその必要性はありません。実際、GLはこの第1四半期の業績においてCCFから持分利益で55.5百万タイバツを取り込んでおります。」と強調いたしました。

CCFからの利益貢献は、GLの第1四半期利益の約20%を占めており、残り80%はタイ、カンボジアからの大きな利益貢献とビジネスが初期段階にあるラオス、インドネシア、ミャンマーからの小さな利益貢献によって構成されております。

此下氏は、「タイ事業は過去3年間にわたる停滞期の後、堅実な戦略のもと回復状態にあります。」と述べました。主力であるオートバイリース事業は、契約ディーラー数を増加させたことにより、月平均売上が昨年第1四半期約4,100台から今期第1四半期で約4,500台と上昇いたしました。

タイ事業ではまた、この数年に渡って試験的な活動を行った上で、中古オートバイのハイパーチェス部門を新たに設置し、この新事業が拡大しております。

カンボジア事業は、地域経済に悪影響を及ぼす干ばつによりしばらくの間、停滞が続いておりました。しかし、今年は豊富な降水量を受け、ホンダオートバイ、クボタ農機具、ソーラーパネルの売上の伸長が期待されております。

オートバイリース以外の事業として、カンボジアでは新事業として、既にオートバイを所有するユーザーがそのオートバイを担保にファイナンスを受けるアセット・バック・ローン事業を開始いたしました。インドネシアでは新商品として、ミャンマーでは新子会社の事業としてグループローンを開始いたしました。

此下氏は、グループの事業として発展の初期ステージにあるインドネシアやミャンマー市場の長期的な潜在成長力に自信を見せております。

インドネシアは、人口2.5億以上の市場規模に対する様々なファイナンスサービスの提供を行うことによる巨大なビジネスチャンスがあります。またミャンマーでは、カンボジア事業と同じように、ホンダと5年間の独占販売ライセンスを獲得したことにより特に上向きな見通しがたちました。

ミャンマー市場では、オートバイの販売台数は年間 およそ100万台（カンボジア市場の3倍以上の規模）が見込まれております。ホンダはミャンマー市場に参入したばかりで、現在のホンダの販売シェアはわずか10%、年間販売台数は約10万台であります。現市場のほとんどは、低品質の中国モデルに占有されております。「この数年でホンダが50%以上のシェアまで拡大できる余地は大きく存在しております。更に、GLはこのミャンマー市場でファイナンスを提供できる唯一の企業であります。」と此下氏は加えました。

以上